

生産者の方々と協力しながら、  
トレーサビリティと工程管理、そして  
栽培化に取り組み、  
安心できる生薬を生産しています。



生産者の少数民族の方々

生薬に必要なことは、安全であること、一定品質、安定した供給、そして安心して使えることです。

これらを確保するために、ウチダ和漢薬では、生薬のトレーサビリティと工程管理、ならびに栽培化に取り組んでいます。

こうした当社の姿勢に共感し、理解し

ていただいた生産者の方々の協力を得て安全・安定・安心を目指した生薬生産の開発を行っています。



## ト レーサビリティを「見える化」し、安心を確保する。

トレーサビリティを簡単に言い換えると「ものの流れを把握できること」と言うことができます。トレーサビリティについては、当社と中国に拠点を置く天津新内田制药有限公司が連携を取り進めることで、既にものの流れを把握する体制はできています。

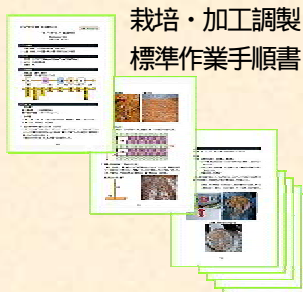
しかし、いくらもの流れを把握できていても、それが見える形にしなければ、生薬の生産における不安感や不信感といったものを拭い去ることはできません。

そこで、最も見えにくい生産地の栽培や加工などの工程を明確にし、速やかに遡及できる体制を構築することによって、トレーサビリティの「見える化」を実現させ安心を確保しています。



中国拠点である天津新内田制药有限公司

## 工 程管理とそれをベースにした試験・検査の実施により、安全と一定品質、そして安定した供給を確保する。



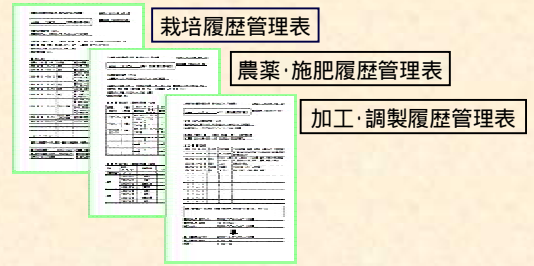
管理体制については、大きく分けると「結果に基づくもの」と「工程に基づくもの」があります。「結果に基づく管理」では、生薬が生産される工程に注意が払われていないため、本来やるべき試験・検査等が行われているかどうか不明です。それに対して、「工程に基づく管理」は、その工程において、どのようなことが行われているかが明確であるため、狙いを定めた的確な試験・検査等を行うことができます。どちらが適切で、効率的な管理であるかは一目瞭然です。

この工程に基づく管理手法の考え方は、いわゆるGAPの基盤になっているもので、同様の考えを持つものとして、GMPやISO9000、HACCPなど

があります。当社は、特に原料生薬の工程管理に重点を置き、生産地の実情を踏まえた**栽培・加工調製標準作業手順書**を作成し、さらに栽培、加工・調製および農薬や肥料などの施用といった各ブロックにおいて**履歴管理表**を作成して、原料生薬が生産される一連の流れと、その素性を明確にしています。そして、これらを基に**狙いを定めた試験・検査を実施することによって、安全と一定品質、そして安定した供給を確保**しています。

なお、この取り組みは、全ての品目に対して同じレベルで行えるわけではありません。栽培品と野生品では、その対応が異なるように、品目によってグレード別に分けた取り組みを実施しています。

### 各種履歴管理表



### 栽培・加工工程等の把握と管理の実施例：ソヨウ



### 栽培化に取り組み、安全と品質の向上 ならびに安定化を図る。

純粋な薬用種の系統維持や成分の安定化、さらに資源の不足や枯渇などに対応するため、日本のみならず中国を拠点とした自社管理の栽培化にも取り組み、**安全と品質の向上ならびに安定化を図**っています。



ヤマトウキの栽培



シソ（紫蘇）の栽培



ミシマサイコの栽培

この様な取り組みを通して、中国各地域の産業発展と雇用の確保に貢献しています。また、こうした活動が生薬の安定確保にもつながっています。